

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 ワイテック 海田工場

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡海田町曾田3-74

(3) 業種

3113 自動車部分品・付属品製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度(2013年度)を基準年度とし、令和5年度(2023年度)から令和12年度(2030年度)までの8年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)、下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成25年度 (2013年)	令和12年度 (2030年)	令和2年度 (2021年)	令和3年度 (2022年)	令和4年度 (2023年)	令和5年度 (2024年)	令和6年度 (2025年)
エネルギー 起源CO ₂	6,267	3,134 50.0	4,802 23.4	5,295 15.5	5,206 16.9	4,855 22.5	4,492 28.3
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計	6,267	3,134 50.0	4,802 23.4	5,295 15.5	5,206 16.9	4,855 22.5	4,492 28.3
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する自己評価	基準年度に比較して2021年、2022年で低減しているのはコロナ禍の影響による生産台数減に寄与している。2023年度で省エネタイプコンプレッサを導入し、生産台数がコロナ禍から元に戻っても大きな排出量に至らなかった。その後に於いては徐々に生産台数が減少してきているのでその影響で排出量も減少しています。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産個数

温室効果ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成25年度 (2013年)	令和12年度 (2030年)	令和2年度 (2021年)	令和3年度 (2022年)	令和4年度 (2023年)	令和5年度 (2024年)	令和6年度 (2025年)
エネルギー 起源CO ₂	0.000340	0.000170 50.0	0.000176 48.2	0.000178 47.7	0.000135 60.4	0.000138 59.4	0.000139 59.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計	0.000340	0.000170 50.0	0.000176 48.2	0.000178 47.7	0.000135 60.4	0.000138 59.4	0.000139 59.0
エネルギー消費 原単位 (原油換算kl)	0.000130	0.000065 50.0	0.000068 47.7	0.000074 43.1	0.000065 50.3	0.000065 50.2	0.000065 50.2
実績に対する自己評価	2023年度に省エネタイプ コンプレッサへの更新、冷却水チラー設備導入により大幅な原単位低減に寄与できたが、以降での推移は生産台数の増減が影響している。また、新たな省エネアイテムを追加していく必要性も感じています。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気使用量原単位における 前年度比1.5%削減を 目標とする	・設備と連動した機器の自動運転化 ・省エネタイプ照明設備の導入 ・不要設備の電源切 ・冷暖房温度の適正管理 ・設備動作の効率化による省エネ改善の実施 ・インバータを活用した設備機器の導入 ・設備運転のインバータ化 ・省エネ設備機器の導入による効率運転の実施
2	化石エネルギー 使用量の削減 (ガソリン、軽油)	化石エネルギー使用量について 前年度比 1.5%削減を 目標とする	・荷置レイト最適化によるフォークリフトの走行距離短縮（軽油） ・軽油の使用量監視 ・使用機会ごとの燃料使用量監視（ガソリン） ・ドライブレコーダーによるフォークリフト運転状況監視
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	ISO14001 取得		全社的なISO14001への取組み活動 実施
2	省エネ活動の実施		定例会議を毎月実施し、会議において各工場での省エネ活動への取組み状況、目標に対する結果報告および工場間での省エネに関する情報交換を実施
3	社内コスト削減報告会での 省エネ活動報告 実施		月1回実施の社内コスト削減報告会において省エネ活動実績および今後の計画を報告

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。